

平成 2 1 年度

《第 1 回》

# 国 語

時間 5 0 分， 1 0 0 点満点

## 受験上の注意

1. 解答用紙には、受験番号・氏名を記入してください。
2. 解答は、解答用紙の所定のところに記入してください。記入方法を誤ると得点になりません。
3. 試験終了の合図とともに、解答用紙・問題用紙とも提出してください。

郁文館中学校

## 一次の文を読み、後の問いに答えなさい。

あなたは日銀が何をしているところかご存じですか？

中学校や高校で一所懸命勉強をして、それ**ア**相応の知識を持っている人は得意満面にこう答えるかもしれません。

「日本銀行とは日本の中央銀行で、銀行券の発行ができ、市中銀行及び政府に対する貸し出しや国庫金の収支業務を行う銀行です。また、金利のイソウサや公債の受け渡し・回収を通して通貨のa増減を図っています。いわば発券銀行であり、銀行の銀行であり、政府の銀行でもあります」と。

なかなかウリツパな解答だと思います。

経済学の教科書にもこのように書いてありますから、模範解答として、満点をもらえそうです。

では、日銀とはどんなところか、小学生に説明してみてください。

「日銀は発券銀行でね・・・。」と言ったとたん、彼らは、「ハッケンギンコウって何ですか？」と聞いてくるでしょう。「何をハッケンするの？」と聞かれて、小学生が「ハッケン」を「A」だと誤解していることに気づくかも知れません。

もう少し噛み砕いて「お札を発行する銀行なんだよ」と説明しても、

「エー？お札を発行するって、私たちにお金をくれるの？」なんて聞かれてしまいます。

①相手はエ手強い。なぜ手強いかというと、素朴な疑問を持つて、それをそのまま口に出すからです。

「日銀は市中にお金をb供給しているんだよ」とでも言おうものなら、「シチュウって何？」「キョウキュウするってどういうこと？」と聞かれるでしょう。

実はそうした素朴な疑問こそ、往々にして本質を衝いているものです。子どもたちからX矢継ぎ早にそうした質問を受けていると、「ああ、自分は日銀について、本当にわかっているんだらうか。いや何もわかっていないんじゃないか」ということに気づかされます。

これは私自身が「週刊こどもニュース」というテレビ番組で経験したこともあります。②「伝える」ために大事なこと。それはまず自分自身がしっかり理解することです。自分がわかっていないと、相手に伝えるはずがないからです。こんなこともありました。

あるとき、知り合いのアナウンサーが放送でニュースの原稿を読んでいるのを何気なく聞いてみるとある一カ所で突然、その内容が頭に入らなくなったのです。放送が終わった後で、その人に聞いてみました。「今の放送で、意味がわからないまま読んだところ、なかった？」と。思った通りでした。

原稿を読んでいるとき、突然フツと集中力が途切れ、その部分の原稿の意味がとれなくなったそうです。意味がわからないまま読んだり話したりすると、それを聞いている相手も意味がわからない。そのことを、私はこのとき初めて知りました。

そういう私も、日々、学ぶことの多い身です。私がとりわけ「自分の『伝える力』はまだまだだな」と思い知らされたのは、NHK時代に「週刊こどもニュース」を担当していたときです。

「週刊こどもニュース」とは、日々のニュースを、子どもたちにわかりやすく解説することを目的にしたNHK総合テレビの番組です。一九九四年にスタートし、現在は土曜日の夕方に生放送されています。私はこの番組に十一年間、出演していました。この「週刊こどもニュース」では、本当に勉強させてもらいました。誰にかと言えば、それはなんといっても、子どもたちに、です。③子どもたちは当時の私にとつて、デスクであり、先生でもありました。大人には通じる『常識』が子どもには通じない。知識も社会経験も、大人に比べると少ないのですから当たり前です。その子どもたちに、どうやって世の中で起きている事件や事故、出来事をわかりやすく伝えるか。これが大変だったのです。

基本的な作業としては、まず、NHKが大人向けに伝えたニュース原稿を子ども向けに書き直します。その書き直した原稿を放送前に子どもたちに読んで聞かせます。子どもたちが「わからない」と言ったら、わかるまで書き直すのです。テレビ局や新聞社、出版社には「デ

スク」という立場の人がいます。デスクとは、現場の記者が書いた原稿に手を入れて読みやすくしたり、事実関係に間違いがないか確認したり、記者に取材の指示を出したりする記者のことです。デスクがOKを出さないと、原稿はY日の目を見ません。記者ではあるのですが、基本的には机に向かつて仕事をするので、「デスク（机）」と呼ばれるようになりました。「週刊こどもニュース」では、出演者の子どもたちに『ダメ出し』されることによって、私たちスタッフは多くのことを学びましたから、子どもたちは先生でもありました。たとえば、難しい科学用語が紙面に躍はっているとします。みんなが使っているから、恥はじをかかないようにコッソリ調べておこうとする。これ自体はよい心がけでしょうが、「こういうことか。なるほど。なるほど。」と思っても、それだけでは本当に理解したことになりません。マークシートの試験では正解できるかも知れませんが、いざ、誰かに説明しようとするときとシドロモドロ、なかなかうまくできないものです。特に、そのことに関してまったく知識のない人にわかるように伝えるには、自分も正確に理解していないと、とても無理です。うろ覚えや（B）正確な知識、浅い理解では、相手がわかるはずはありません。

何かを調べるときには、「学ぼう」「知ろう」という姿勢にとどまらずに、まったく知らない人に説明するにはどうしたらよいかということまで意識すると、理解がオカクダンに深まります。理解が深まると、人にわかりやすく、正確に話すことができますようになります。

く『伝える力』池上 彰く

問一 二重線部ア、オのカタカナは漢字に改め、漢字は読みを答えなさい。

問二 点線部 a 「増減」の熟語の構成と同じ構成のものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 収支    イ 解答    ウ 確認    エ 出演

問三 点線部 b 「供給」の対義語として最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 提供    イ 欠乏    ウ 貸与    エ 需要

問四 「A」に入る適語を考えて漢字二字で答えなさい。

問五 （B）に、「非」・「不」・「無」・「未」の中で適切なものを選び、漢字で答えなさい。

問六 波線部 X Y の意味として適切なもの次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

X 矢継ぎ早に    ア 途切れ途切れ    イ あちらこちら

Y 日の目を見ない    ウ 次から次へと    エ 簡単手短に

ア 書くことが出来ない    イ 提出されない

ウ 一から書き直しになる    エ 公表されない

問七 傍線部①「相手」とは何（誰）ですか。本文中より三字で書き抜きなさい。

問八 傍線部②「『伝える』ために大事なこと」とは何ですか。本文中より十五字で書き抜きなさい。

問九 傍線部③「子どもたちは先生でもありました」とありますが、その理由が記述されている部分を四十五字以内で抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。ただし、

句読点・符号は字数に数えないこととします。

問十 本文の内容に合うものには○、合わないものには×をつけなさい。

ア 「日本銀行とは、発券銀行、つまり、お札を発行する銀行である」という説明で、ほとんどの小学生は理解できるものである。

イ ニュースを聞いていて内容がよく理解できないときは、原稿を読むアナウンサー自身も理解できていない場合があるといえる。

ウ アナウンサーとして伝えることを、自分でしっかりと理解さえしていれば、相手が小学生でも理解できるものであるといえる。

エ 難しい専門用語などわからない言葉は、事前に辞書などで調べて理解しておくことが相手に伝える最良の方法であるといえる。

オ 伝える側として「学ぼう」・「知ろう」という積極的な姿勢が、何より理解を深め、相手にわかりやすく伝えることにつながる。

## 二 次の文を読み、後の問いに答えなさい。

あの日は、朝のうちはいい天気だったのだ。給食の時間には先生から「a梅雨の晴れ間」という言葉を教わった。でも、午後から急に雲行きがあまりよくなり、（1）下校時間を狙ったように雨が降りはじめた。傘を持ってきていたのは、友だちの中ではきみだけだった。「午後、ところによりにわか雨」の天気予報を信じたお母さんが「念のために持つて行きなさい」と言ってくれたおかげだ。

友だちが「わたしも入れて!」ときみに駆け寄って、傘に入ってきた。「あいあい傘だね」と二人で笑っているうちはよかったが、「わたしも!わたしも!」と友だちが増えて、しまいには五人で押しくらまんじゅうをするように一本の傘を分け合うことになった。歩きづらくてしょうがないし、傘からはみ出した肩は雨で濡れてしまった。本音では①少し迷惑でも、「恵美ちゃん、恵美ちゃん」とみんなが寄ってくるのは、悪い気分ではなかった。

狭い歩道をふさいで、べちゃくちやおしゃべりしながら歩いた。そこにもう一人、同じクラスの子が「わたしもお願い!」と駆けてきた。（2）うんざりして、「だめだよ、もう定員オーバー」と断った。でも、その子は「いいじゃん、友だちでしょ、ねっ?」と無理やり傘の下に入って、きみは押し出された格好で、傘をほとんど使えなくなってしまった。やだなあ、と思った。（3）傘を持ってきたのに、これはわたしの傘なのに、悔しくなっただけ、悲しくもなかった。

ふと見ると、前のほうに一人で傘を差して歩いている子がいた。前後のグループからぽつんと離れた、ひとりぼっちーちよつと太った体つきに見覚えがある。隣のクラスの子だ。「ねえ、あの子、名前なんていうんだっけ」隣の友だちに訊いたら、「さあ・・・」と言われた。二人目の友だちも「顔はわかるんだけど、名前、なんていったかなあ」と首をかしげた。三人目でやっとわかった。②楠原由香ちゃん。もっとも、名前を覚えてくれた友だちも「どんな子?」ときみが訊くと、「よくわかんない、すぐおとなしいから」としか答えられなかった。四人目の友だちで、やっと、少しだけわかった。

「わたし、一年と二年のときにクラスが同じだったんだけど、あの子、あんまり学校に来てなかったから・・・」「不登校とか?」「じゃなくて、なんかねー、体弱っていうか、悪いんだって、どこか。半年ぐらい入院してたこともあったと思うけど・・・でも、あんまり仲良くなかったし、しゃべんない子だったから、よくわかんない」ふうん、ときみはうなずいて、もう一度由香ちゃんの後ろ姿を見た。うつむいて、とぼとぼと歩いている。体が弱くて、悪くて、おとなしくてーすれ違ったときのbインショウでは、顔もかわいくなかったし、勉強もあまりできそうには見えなかった。「仲のいい子とかいるの?」「いないと思うよ」「じゃあサイテーじゃん、と心の中でつぶやいたとき、傘の下誰かが水たまりをよけようとして、③押しくらまんじゅうのかたまりが傾いた。「ちよつと、押さないでよ」「危ないよ、転んじゃうよ」「押さないでつてば」・・・きみは傘の外にはじき出されてしまった。降りしきる雨に髪や顔があつという間にびしょ濡れになって、もう我慢できなくなった。

あんたたち出て行ってよ、これ、わたしの傘なんだからー。言いたくても、友だちには言えない。

だから、「もういい、わたし、由香ちゃんに入れてもらうから」と、ガードレール沿いに走って由香ちゃんに追いつくつもりだったのに、c勢いがつきすぎて、車道に飛び出す格好になってしまった。クラクションよりも早く、車の影が迫ってきた。白いライトバンと気づいたのを最後に、あの日の記憶は途切れている。

入院生活は三ヶ月におよんだ。大きな怪我が左膝のdフクザツ骨折だけですんだのは、ほんとうに運が良かった。車があとほんのちよつとスピードを出していて、きみの体があとほんのちよつと車道の真ん中に寄っていたら、どうなっていたかわからない。

でもきみは、命が助かった幸運に感謝する前に、事故に遭った不運に打ちひしがれた。ライトバンの運転手よりも、（4）傘を奪った友だちを恨んだ。あの子たちさえ傘に入つてこなければ、こんなことにはならなかった。友だちだから、と遠慮したから事故に遭った。「あんたらのせいだから!」連れ立ってお見舞いに来た友だちを、泣きながら責めた。

謝っても許さなかった。お見舞いに来るたびに、何度も何度も言った。別の友だちが病室を訪ねたときには、あの五人の悪口ばかり言いつのった。「恵美が自分で車道に飛び出したんだから・・・」と友だちをかばうお母さんにも、枕やティッシュペーパーの箱をぶつけた。覚えてたのeサイバンの言葉を使って「コクソしてよ！ソングイバイショウさせてよ」としてつく言うのと、お父さんに叱られた。

④やがて、友だちはお見舞いに来なくなった。あの五人だけでなく、他の子も。

きみのいない教室の片隅で、誰かが「恵美ちゃんもあそこまで言うことないのにね」と口火を切った。最初はおそろおそろでも、別の誰かが「だよねー」と応じると、その声はとたんに大きくなり、あつという間に教室中に広がった。途中から、話は事故に遭う前のきみの悪口に変わった。仲良しだった子が次々に、「ちょっとわがままだと思ってたんだよねー」「言うのは悪いから言わなかったんだけどー、身勝手なところあるじゃん」と、いままでのほんとうにあったのかどうかわからない不平不満を口にして、そのほとんどは「そうそう、わたしもそう思ってた」とみんなにも受け容れられた。

秋になってきみが退院したときには、もう謝ってくる子はいなかった。⑤交通事故が奪ったものは左脚の自由だけではなかった。友だちがいなくなってしまうた。事故が原因でも、事故のせいにはできないことぐらい、小学四年生のきみにもわかっていた。クラスの人気者だと思っていた。でも、それは嘘。一人かを責め立てただけで、「みんな」が敵に回った。きみはあまり笑わなくなった。にわか雨が降っても誰も傘には入れてやらない。誰の傘にも入らない。そう決めてしまうと、「入れて！」と頼んでくる子や「入らない？」と誘ってくる子は誰もいなかった。

〵重松 清『きみの友だち』〵

問一 二重線部aゝeのカタカナは漢字に改め、漢字は読みを答えなさい。

問二 波線部「本音」の対義語を漢字二字で答えなさい。

問三 (1) 〵 (4) にあてはまる言葉として適切なものを選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア さすがに イ むしろ ウ まるで エ ようやく オ せっかく

問四 傍線部①「少し迷惑でもゝ悪い気分ではなかった」とあるが、「きみ」がそのように思った理由を本文中から十五字以内で見つけ、「ゝから」という形に合わせて書き抜きなさい。

問五 傍線部②「楠原由香ちゃん」とはどんな子であるとわかりますか。本文中の言葉を使って二十五字以内で答えなさい。

問六 傍線部③「押しくらまんじゅう」とはこの時点では結局何人になりますか。答えなさい。

問七 傍線部④「友だちはお見舞いに来なくなった」とありますが、これは「きみ」のどのような態度に原因があります。その態度を端的に示している部分を本文中より十字で書き抜きなさい。

問八 傍線部⑤「交通事故」について

(1) 事故の原因を「きみ」はどう考えていますか。本文中の言葉を使って二十五字以内で答えなさい。

(2) 事故で失ったものを二つ、それぞれ本文中より五字以内で書き抜きなさい。